

オール沖縄・日本共産党衆議院議員 沖縄1区選出

あかみね政賢 国会だより

月刊 No.5

【九州沖縄ブロック事務所沖縄分室】
〒900-0016 那覇市前島3-1-17
電話.098-862-7521 FAX.098-862-7735

【国会事務所】〒100-8981 千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1107号室
電話.03-3508-7196 FAX.03-3508-3626

最高裁の不当判決に抗議 県民の団結広げ、新基地ストップを

「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は9月5日、県民広場で、県の訴えを退けた最高裁の不当判決(同日)に抗議する県民集会を



最高裁判決に抗議するあかみね政賢議員ら

開催。700人以上の県民が参加し、新基地阻止へ頑張り抜こうと決意を固め合いました。



稲嶺進共同代表は、県民の思いは計画が白紙に戻るまで変わることはない」と強調。「これからもデニー知事を支え、うちなーんちゅの思いが全国・世界中に伝わり広がるよう力を合わせよう」と呼

びかけました。県の訴訟代理人を務める加藤裕弁護士は、「地方自治を踏みこむ最低の判決だ」と指摘。防衛局の設計変更申請を不承認とした知事の判断を審査もせず、国交相が裁決さえすれば知事は何も言えないと結論付けたことを批判しました。

あかみね政賢衆議院議員は「5人の裁判官が書いた中身の無い判決文に沖縄県民の運命を任せるわけにはいかない。新基地を絶対につくらせないたたかいを県民が団結して広げていこう」と訴えました。

関東大震災から100年

衆議院議員 赤嶺 政賢

1923年9月1日に発生した関東大震災から、ちょうど100年がたった。10万5000人を超える死者・行方不明者を出した。災害から人の命をどう守る

性になった。政府は公文書

か、さまざま大切な教訓が解明されていく。忘れてならないことは、震災に乗じて、社会主義者や朝鮮人、中国人などに對する大量の虐殺事件が起ったことだ。沖縄の人も犠牲になった。政府は公文書が残っていないので証明できないと居直っている。朝鮮人虐殺は日本による朝鮮半島の植民地支配の圧政が続く下で起こったものだ。歴史を偽る政府の態度に怒りがわいてくる。今日まで続く政府のデマは絶対に許せない。



阪神が優勝を決めた巨人・阪神戦の日。国会から戻ると一年生の孫がテレビを前にそわそわしている

る▼テレビの見過ぎで大人から注意されたらしい。じーじーも興味があったので、一緒にテレビの前に座って野球中継を見た▼阪神がリードしている。孫も「阪神が優勝するぞ」と興奮状態▼ついでこの間まで「巨人が大好き」と言っていたのに、「今日勝てば阪神が優勝だから、今日は阪神」と言う▼試合も終盤、巨人の選手がホームランを打ったから、「試合の行方が分からなくなつた」といっばしの野球評論家だ▼プロ野球のシーズンが終わるまでは孫の野球解説に付き合わされそう。

勝連へのミサイル配備断念を うりずんの会が要請



「うりずんの会」防衛省要請 左から伊波洋一参院議員、小野田政務官、赤嶺政賢衆院議員、高良鉄美参院議員

6日、防衛省を訪れ、陸上自衛隊勝連分屯地への地对艦ミサイル連隊の配備断念を要請しました。

対応した同省の小野田紀美政務官は、「配備が県民や国民の安全確保につながる」と従来の政府見解を淡々と繰り返すだけ。地元住民が求めている住民説明会についても「うるま市に説明を行っている」と応じない姿勢を示しました。

あかみね議員は、「ミサイル配備は基地負担の軽減という政府の立場に明らかに逆行している。沖縄の歴史を知らないでこのようなことをしているのなら大変なことだ」と述べ、住民説明会の開催と配備断念を強く求めました。

あかみね議員は、「ミサイル配備は基地負担の軽減という政府の立場に明らかに逆行している。沖縄の歴史を知らないでこのようなことをしているのなら大変なことだ」と述べ、住民説明会の開催と配備断念を強く求めました。

この間の活動

- 対馬丸慰霊祭に参加(8月22日)
- 市田忠義党副委員長を招いた党創立記念講演会で挨拶(同23日)
- 渡久地修県議と辺野古行動の激励(同25日)
- 宜野湾ちゅら水会の国連報告会に参加(同27日)
- 「台湾有事」を起こさせない対話プロジェクトに参加(9月9日)
- 比嘉瑞己県議県政報告会に参加。女性後援会の皆さんと首里、国場地域で街宣(同10日)
- 党県議団と政府交渉(同12日、13日)



- 「PFAS汚染アメリカ最新レポート」講演会に参加(同16日)
- 安里・大道・松川島ぐるみの会のスタンディング行動に参加(同19日)



あかみね政賢

市議・国会議員35年の実績・足跡(5)

普天間基地撤去もとめ、 沖縄の心発揮

昨年(2004年)夏おこつた「沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事件」をきっかけに、米軍基地に反対する県民世論が急速に広がりました。名護市辺野古でも金

武町伊芸区でも、戦争を体験し、米軍基地の被害に苦しめられてきたオジー、オバーたちが「同じ苦しみ、孫の代にはひきつがせない」と、米軍基地の建設に反対し頑張っています。

「沖縄の心」は、平和を希求する心。その立場で、対米追隨の小泉内閣に、平和と基地撤去を迫ってきました。
被災地調査、治水対策を要求

日本列島を襲い続けた昨年の台風、地震被害。10月の台風で、家屋浸水など大きな被害を受けた大分県佐伯市の番匠川、堅田川の被災地を調査。政府に復旧措置を要求。遅れていた河川

の治水対策の改善を国に約束させました。(『アカミネセイケン国会だより』2005年1月号)
三たび国会に送っていただけきました



増税・医療保険改憲反対デモを激励

活動分野も広がりました

昨年(2005年)夏の総選挙で三たび国会に送りだされた

き、私の活動分野も諫早干拓、産廃処理問題などの環境問題、旧日本軍防空壕調査、「被爆体験者」への医療給付問題など多方面に広がりました。また、地震(福岡)、台風(沖縄・宮崎)、水害(大分)の災害現場にも繰り返し足を運び、被災地の調査と復旧・復興のための対策を政府に要求しています。(『アカミネセイケン国会だより』2006年1月号)